



まつげエクステーションに美容師資格が必要となったことで、美容師の特権ともなったアイリストという職業。そのアイリストを育てるため全国にアイ専門のスクールを開校している『ThreeBeauty』の下田とよみさんに、アイメニューのこれからを尋ねてみた。

03

- kakimoto arms
- YAMANO BEAUTY WELLNESS SALON
- ThreeBeauty

**ヘアをも発展させる
アイの無限大の可能性！**

ヘアサロンが行うビューティメニューを考える上で、忘れてはならないのがまつげエクステなどのアイメニューだ。厚生労働省の見解で、まつげに関わる施術を行うには美容師免許の必要性が生まれ、アイメニューは美容師の特権となった。それにより、アイメニューは美容師の働き方を大きく変える存在になる。そう語るのには、まつげエクステーションメーカー「Ailash」やアイリストを育成するスクール『Japan Eyelists College』など、Three Beauty 代表・下田とよみ氏。

「結婚・出産などにより女性のスタイリストは、一度現場を離れてしまうと復帰しづらいのが現状です。しかし、アイリストになればその資格や経験を生かして現場復帰することができます」

すなわちアイメニューは、結婚、出産、手荒れなどで引退を余儀なくされた、女性のスタイリストの新たな活躍の場になるということだ。スタイリストやアシスタント、レセプションと兼任することもできるので、サロンでも導入しやすい。

MESSAGE:
**アイの可能性はこれから！
アイコーディネーターがサロンを変える**



**1台あたり/1ヵ月
平均売上70万！
最高150万！**

ビューティメニュー一覧（推奨料金）

アイラッシュ	上まつげ80本 6,300円 / 160本 14,700円
	下まつげ40本 4,200円 / 60本 6,300円
まつげメンテナンス	2,100円
まつげトリートメント	ベーシック / 1,050円、スペシャル / 3,150円
全オフ	他店 / 1,575円
オーダーアイラッシュ	100本以内 / 4,500円、100本以上 / 5,500円
アイブロウ ケア&メイク	レディース / 6,300円、メンズ / 5,250円
アイブロウトリートメント	2,100円
オーダーステンシル	3,150円
アイメイク(ポイント)	1,500円
アイメイク(フル)	3,150円
トレンドアイメイク	2,100円

サロン年表

- 2008 株式会社ThreeBeauty設立
まつげエクステーション、グルー（接着剤）の商材開発、販売を行う
- 2009 Japan Eyelists Collegeを開校
本物のアイデザイナーを育てるためにまつげエクステスクールを開校。
- 2012 海外初、ハワイにスクールを開校
- 2013 「アイプロウ科」「アイメイク科」を新設
アイコーディネーター学生チューデントサロン『Eye 3』オープン。
現在、美容商材や事業のプロデュース、販売の他、国内外合わせ52校のスクールを展開している



Three BEAUTY
下田 とよみ

しもだとよみ / 1981年1月19日生まれ。京都府出身。美容専門学校を卒業後、エステティシャン兼カウンセラーを経て23歳で企業。美容商材の販売や不動産会社の運営を経て、27歳で(株)ThreeBeautyを設立。現在スクール経営、メーカー業などをこなしながら、アイコーディネーターの確立・育成に尽力している。

「もちろん、それ以外にもサロンでアイリストを導入するメリットはあります。専任のアイリストであれば、1日6、7人の施術ができます。まつげエクステのみでも客単価は、6、7千円なので、1ヵ月で約70万円の売り上げに。なかには、1つのベッドで150万円を売り上げている人もいますよ。さらに、アイプロウのケアやメイクなどの施術もできれば、その分客単価はプラスに。アイメニューの導入は、早く確実に、利益を上げることが可能なんです」

さらにアイメニューをサロンで導入すると、ヘアメニューの売り上げにも影響があるという。

「ヘアサロンでアイメニューを行うと、ヘアとマッチするアイゾーンの提案ができます。また、アイゾーンが変化することで、今までお客さまの雰囲気に合わせて、チャレンジできなかったようなヘアに挑戦することもできるよう。さらに、アイリストがアイプロウのケアやアイメイクも行えれば、提案できるヘアのバリエーションがもっと増えます」

サロン利用客の中核は、40代の女性。顔の中でも、特に年齢が表れやすい目元への注目も高い世代だ。顔のゆがみやたるみにも効果を発揮するアイメニューは、ヘアメニューとともに美しくなったことを実感しやすい、見た目に現れるメニュー。彼女たちの満足度アップも狙える。もちろん、そのためには確かな技術が必要とされるが、アイに関連するメニューは、今後ヘアサロンでの発展がますます期待される。アイメニュー導入を検討する価値は大いにありそうだ。